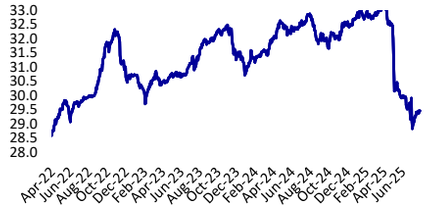
Mizuho Weekly Market Report

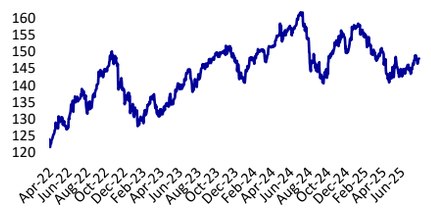
2025/7/28
みずほ銀行東アジア資金部台北室

市場動向

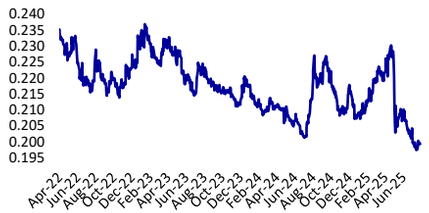
■USD/TWD



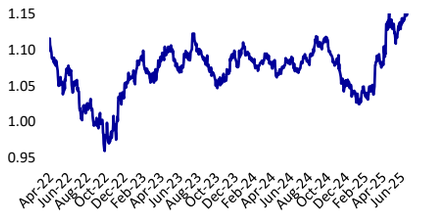
■USD/JPY



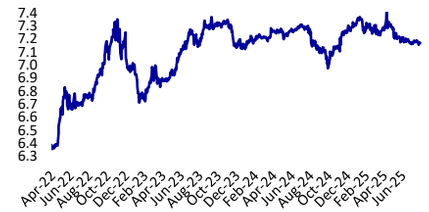
■JPY/TWD



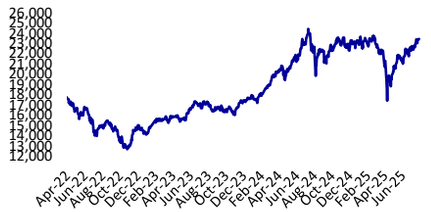
■EUR/USD



■USD/CNH

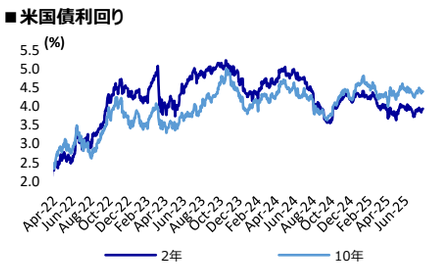


■台湾加権指数



■台湾國債利回り

■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のUSD/TWDは上昇。7/21、29.383でオープンした後、対米関税交渉の結果を睨みながら、輸出企業の売りと外資の資金流入が拮抗し、方向感の出にくい相場。7/22、海外市場のドル安を受け、台湾ドルはユーロなどとともに上昇したが、対米相互関税交渉の見通しは依然として不透明であるため、値動きは限定的。午後、台湾株の下落に伴いドル買いが優勢となり、29.400台半ばまで上昇。7/23、日米貿易協定が合意されたことで、台湾ドル買いが先行し、29.362でクローズ。7/24、関税交渉に対する期待感から、台湾ドルはアジア通貨とともに上昇。午後は国内投資家による海外送金フローが入り、29.402でクローズ。7/25、配当金送金に伴うドル買いが先行したものの、月末に近づくにつれ輸出業者の換金売りに抑えられ、上昇幅は限定的に留まった。最終的には前週比0.18%ドル高台湾ドル安の29.460でクローズ。週間の外国人投資家の株式買い越し額は401億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のUSD/JPYは下落。7/21、148.00でオープンした後、参議院選で与党連立は僅差で少数派与党となったが、石破首相は続投の意思を表明。欧米時間に入り、米財政悪化やFRBの独立性が懸念され、広範なドル安で147円台前半まで下落。7/22、日本の政情は不透明で147円台で推移。市場は日米関税交渉及び石破首相の今後の動向に注目。海外時間、米国債金利の低下を受け、USD/JPYは一時146.31円まで下落。7/23、日米貿易交渉の進展でリスクオンのドル売り優勢の展開。欧米時間では、米国とEUが15%の関税合意に近いとの報道が出ると米金利はじわじわと上昇。7/24、日銀の利上げ期待感から、円は一時145円台後半まで上昇。しかし、堅調な米経済指標を受け、米金利の上昇とともにドルは再び147円台まで反発。7/25，日銀関係者の話として、年内利上げの可能性の話が伝わると、円買い優勢の展開。その後、石破首相退陣への思惑から円売りが加速。欧米時間では、午後にかけて米金利が小幅に低下するのに合わせてドル円も上昇幅を縮小。最終的には前週比0.78%ドル安円高の147.69でクローズ。

■USD/TWD　**予想レンジ：29.150-29.650**

今週のUSD/TWDはレンジ推移となる予想。国際市場における関税交渉の進展により貿易状況が明確になり、市場の不確実性が一部緩和されたが、引き続き台米間の相互関税問題に注目が集まる。さらにFEDとBOJの今週の金利政策会議及び会議後の発言も、今後の金利政策の変更を決定する上で焦点となる。USD/TWDはレンジ推移と予想。

■USD/JPY　**予想レンジ：146.00-149.00**

今週のUSD/JPYは揉み合い推移を見込む。日米貿易協定の進展が市場心理を押し上げたが、石破政権の見通しは不透明で政権の不確実性は依然として残っている。今週のFEDとBOJの金利政策会議に注視し、USD/JPYはレンジ推移と予想。

今週の予想

7/28 (MON)	
7/29 (TUE)	米7月消費者信頼感指数
7/30 (WED)	米7月ADP民間就業/Q2GDP/FOMC
7/31 (THU)	日6月小売業売上高/工業生産/BOJ，台湾7月S&P製造業PMI，米6月PCE
8/1 (FRI)	日6月失業率/7月S&P製造業PMI，米7月非製造業景況指数/ISM製造業PMI

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようにお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。